



Let's talk together!

メンタル通信

(令和3年4月発行)

発行：社会福祉法人長岡メンタルヘルス協会

〒940-2033 長岡市上除町字野田甲105-22

TEL・FAX 0258-46-3116



写真：創造工房コスモス 桜開花

～目次～

表紙

- P1. 服部さんが残したもの
- P2. 服部さんからの贈り物
- P3～7. 追悼の言葉
- P8. グループホーム上除寮・虹・与板寮 年間予定
- P9. 創造工房コスモス 年間予定・あとがき
- 別紙 令和3年度予算





服部さんが残したもの

理事長 山崎 芳子

突然の服部さんの訃報は、哀しくて受け入れがたいもので、数時間前まで一緒に打ち合わせをしていたのに・・・と言葉が出ませんでした。

私が初めて服部さんに会ったのは30年前。悠久荘（現精神医療センター）で臨時のケースワーカーとして勤務したときでした。長期在院患者の退院、在宅支援、家族支援にかかわる服部さんの姿に、こんなにも人の人生に関わる仕事があるのかと驚き感動したことを覚えています。あたたかい服部さんのいるワーカー室は、患者さんが相談やいろんな話をしに訪れる場となっていました。

「長岡メンタルヘルス協会」という名は服部さんが提案し名付けられました。2003年9月上除寮を開きNPOとなったことから始まり、2013年に現在の「社会福祉法人 長岡メンタルヘルス協会」へと実を結びました。道のりは決して楽なものではなく、差別偏見から理解を得ることができず、悔しさに眠れない夜もありました。どんな時も服部さんと多くを語り合い、利用者のための法人を目指そうと歩いてきました。服部さんと歩いてきた道はたしかにここに残っています。

服部さんは、誰とでも分け隔てなく声をかけ、寄り添い、共感し、困ったことを助けてくれました。いつでもメンバーの話を聞いてくれました。それは私が出会った時と全く変わる事のない姿勢でした。そして、病気になったことは絶望的なことではない、思い通りにいかないことは最悪なことではないと、メンバーと共に苦勞をしてきた人でした。

服部さん、本当にありがとうございました。一緒に仕事をし、学び得たことは私の宝です。今まで継続してきたことを力に変え、本人や家族にとって本当に役に立つ支援の実現に向け、これからも歩み続けたいと思います。

最後に

前理事長が、高く挙げた灯が絶えることなきよう、また、長岡メンタルヘルス協会の新しいステージを職員と共に、そしてメンバーと共に築いていきたいと思ひます。今後とも更なるご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。





服部さんからの贈り物

長岡メンタルヘルス協会 評議員 滝浪 文子

「そこにいるだけでほっとし、温かな気持ちになれる」

「そばにいるだけで安心し、心強くなれる」

服部さんは誰にとっても癒しの人でした。

服部さんと私との出会いは今から39年前、昭和57年4月にさかのぼります。
まだ精神衛生法（昭和25年制定）の時代でした。

当時の精神医療は入院治療が中心で、病状が安定しているにも関わらず、長期入院されている方がたくさんいらっしゃいました。

エアコンは勿論、公衆電話、カーテンもなく今から考えると驚くような大変な病棟環境でした。

「俺たち患者は大きな荒波に浮かぶ一枚の木の葉の様だ」

ある患者さんがつぶやいた言葉です。

服部さんはこの言葉が強く胸に響いたようで、患者さんの生活を示す状態としてその後何回か紹介していました。

そして

「症状や生活のしずらさがあってもきめ細かな支援があれば地域で暮らせる」
を信念に幾多の改革を推し進めていきました。

長期入院者さんの家族を説得するため、アパート生活の前段階として当時空いていた医師公舎を共同住居にしたこと、病院で安らげる場づくりとして院内喫茶を立ち上げた事、院内、地域との交渉力は服部さんでなければ成し遂げられなかったと思います。

関わるスタッフはみな意欲的な方向性に賛同し、共同住居や喫茶店開店準備に備品を持ち寄ったりして協力したのも良い思い出です。





服部さんは家族の気持ちにもしっかりと寄り添い、いつも丁寧に話を聞いていました。

ある家族会総会で私は「患者さんの対応に苦悩する母親の涙ながらのやりとり」を伝えました。

同じ経験をされてきたであろう家族の方は胸につまる思いがあったようで、何人かの方は涙されていました。

その様子を見ていた服部さんが最後の挨拶で「滝浪さんと一緒に仕事をしてきて良かったと思いました」と言われ、私にとって最高の言葉となりました。


服部さんと同じ時代、同じ地域で出会えた私たちは幸せ者です。

私たちと出会ってくれて本当にありがとうございました。

服部さんからの贈り物

「いつも温かく寄り添い続ける心」「一緒に仕事をして培った力」を私たちは必ずたくさんの人たちに伝えていきます。





服部さんを偲んで

創造工房 コスモス 施設長 杉野 昭

服部さんに謹んでご冥福をお祈り申し上げますと共に、服部さんとの思い出を書かせていただき追悼とさせていただきます。

私が服部さんとはじめて出会ったのは、私が最初に入職した県立療養所悠久荘（現：県立精神医療センター）でした。当時病棟で勤務していた私の服部さんへの印象は、たぶん情報がいっぱい詰まっているであろう分厚いシステム手帳を常に手に持ち廊下を歩く姿、その容姿も含めとても厳しい、怖そうな方だと思っていました。しかし、その印象もそう長くは続きませんでした。それは病棟のホールで患者さん達と話をする姿や病室のベッドサイドで椅子に座りじっくりと時には笑顔で患者と関わっている姿が印象的でした。また、病院内での学習の機会で精神保健福祉関連の法律、制度等が変わる毎の講義や福祉に関する話を聴く機会を頂くにつれ、その内容の分かりやすさ、仕事に対する姿勢が少しながら理解できるようになっていったように思います。そういったところからも私の服部さんに対する印象は変わって行きました。

その後、私は看護学校へ転勤になり、看護学校でのカリキュラムの一環として社会福祉分野の講義を担っていただきました。学生からは具体的でわかりやすく、時にはエピソードも含めての講義は大変好評でした。

精神看護学の臨地実習でも精神医療センターでの実習初日のオリエンテーション（精神領域における社会復帰支援、精神科訪問看護について）で講義をしていただきました。学生からは精神科でのイメージが変わった、明日からの実習に臨む心構えや頑張ろうという気持ちになったとの声を聞く等好評でした。

当時、精神看護学実習では地域で暮らしながら障害と共にという視点での実習が組まれていました。当初実習の場を開拓するにあたり、その施設の選択にはそれほど迷いはしませんでした。服部さんに依頼し関連する施設での実習をお願いしようと考えたらからです。そして依頼すると快く引き受けてくださいました。当時、実習の調整や学生指導としてコスモスに入らせてもらい。時には私個人の相談にもしてもらいました。例えば「いずれは福祉の分野に関わりたい、どこか働ける場を紹介していただけないですか？」と相談を持ち掛けたら。「うち（コスモス）にあればいいじゃないか」と即答され（軽く、簡単な言葉に受け取り、そんなんでイイんかい（笑）。それに対して「そうですネー？」とこれまた簡単に返答してしまった私がありました。その後実習で服部さんと会うたびに、再び同じような話をさせてもらうと返事はいつも同じでした。



その後県職を退職し、コスモスと一緒に仕事をさせていただくことになりました。事務室では隣の席で、また、日々の仕事を通し機会ある毎に話をさせていただきました。法人全体の事、コスモスの事など様々な話が出て、私にはその多くが新鮮でありました。事務室の椅子に座り大きなお腹を突き出し、時にはさすりながら・・・真面目に話されていました。（その話の内容、場の雰囲気から笑ってはいけなところえていた自分が居た）また、時には仕事以外の昔一緒に勤務させて頂いた悠久荘（現：新潟県立精神医療センター）の話などもさせて頂きお懐かしく感じたものでした。

そのような中で学ばせて頂いたことは非常に多く、障害を持った人への関わり、その障害の部分だけを見るのではなく、対象を全体で捉える。そして健康な部分への関わり、そこを広げるような働きかけることの重要性。そこからその個人が持っている特性を把握し、受容し、共感できるように関わること。対象者と関わるにおいて、関係構築、コミュニケーション技術が重要になってくる。そのコミュニケーションを駆使する時、専門的な知識、技術、態度が重要であることを学ばせて頂いた。

病院に入院している患者との関わり、障害を持ちながら地域で暮らす生活者としての対象者との関わり、その関わりの方こそ違っても人と接する仕事には何の違いもない。利用者第一主義、利用者中心の視点を忘れてはならない。関わりの技術として、自分自身を道具として関わる技術、そのためには自分の言動が利用者者に及ぼす影響を振り返りながら関わること。つまり自分自身はどういった傾向・特性（精神面、行動面）があるのか自己洞察し、適材適所で自分自身を関わりの道具として行くことが大切であると考えたこと。等多くの事を学ばせていただいた。今となっては、直接会って指導を仰ぐことは出来ませんが、今まで服部さんと関わらせて頂いた中での服部さんの考え、姿勢から学ばせて頂いたことを振り返り、さらには自分の考えを膨らませながらこれからも人と関わる仕事に携わって行こうと思う。独りよがりな考えかもしれないがきっと服部さんも理解してくれるのではないかと思います。

今は、突然、会えなくなったことの驚き、そして悲しみでいっぱいです。これまでのご功績に敬意を表するとともに、一緒に働かせていただいたこと、時間を共有させて頂いたことに感謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。 合掌





服部さんから学んだこと

創造工房 コスモス サービス管理責任者 丸山 大樹

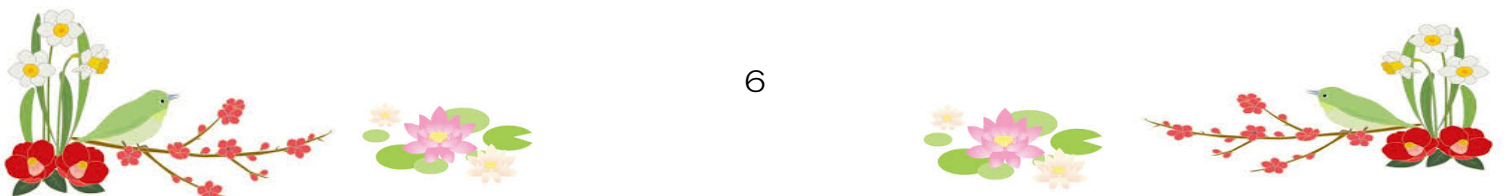
2月4日に服部さんの訃報に接しました。前日もいつも通り仕事をさせていただきに、急なことで大変驚きました。きっと何かの間違いではないだろうか。しかし、それが本当のことだとわかってくると、しだいに悲しみがこみあげ、全く整理がつかみませんでした。翌日のメンバーミーティングで、山崎さんの方から服部さんの訃報をコスモスのメンバーに伝えた時は、悲しみや驚きであふれました。「コスモスは変わらない。」その言葉に、皆少し安心し、同時に私は服部さんが築いてきたコスモスを守っていかなくてはと思いました。

翌週、コスモスの和室の一角に、服部さんの写真を置き、お花を供えました。すると、手を合わせるメンバー、お菓子をお供えするメンバーがたくさんいました。日々の雑談では服部さんの話題が尽きません。「服部さんと話したい。」今でも皆がそう思っています。メンバーのご家族からも服部さんを悼む声がたくさん寄せられました。きっと皆さんの心の中に服部さんは生き続けているのだと思います

服部さんの周りにはいつもメンバーがいました。普段はおとなしいメンバーも、服部さんの前では、楽しそうに話すのです。服部さんは、すべての人を同じように接していました。そして、メンバーのことを常に思っていました。制度や法律がどんなに変わろうと、メンバー主体は変わらない、おかしいと思うことははっきり意見する、優しさと強さを持っていました。

私が服部さんと初めて会ったのは、大学生の頃です。服部さんは大学の先生をしていました。就職活動をしている時、採用が決まらず路頭に迷っていると、キャリアサポートセンターから電話があり、「服部先生が経営している法人の求人が出ているのだけど、そこを受けてみないか。」とのことで、すぐに見学の予約を入れました。そして見学の日、服部さんにご丁寧に法人の全施設を案内していただきました。その時に感じた、服部さんの雰囲気や、施設のアットホームな感じが気に入って、面接を受けてみることにしました。早いもので採用されて6年が経ちました。私は人と話すことがあまり得意ではないのですが、服部さんの励ましに救われて、何とかここまで続けることができました。服部さんは私のことを常に気にかけていただきましたし、結婚の報告をしたときはとても喜んでいただきました。服部さんは普段は会社の上司として、時に父親のような存在でした。服部さんが経験されてきたことや、メンバーの支援のこと、これからのコスモスのことなど、聞きたい事が山ほどあったのに残念でなりません。

私は服部さんに生前お世話になりながら、面と向かってしっかりとお礼を言えずにいました。なのでここで言わせてください。服部さん本当にお世話になりました。いつも見てくれていてありがとうございました。お疲れ様でした。ゆっくり休んでください。





服部さんありがとう

服部さんへ

2月の4日（木）

服部さんが永眠した。とつぜんだったので本当にびっくりした！！

ぼくは、本当に服部さんと、ながいつきあいで、本当にお世話になった！！

名前のこと!! お金のこと!! 就職のこと!! 又、は、病気のこと!! →（とくに幻聴）

数えきれないほどの思い出が尽きない!!

本当にお世話になったし、さんざん迷惑もかけた!!

又、服部さんは、とてもぼくのことを思ってくれて、本当に自分の子供のように、
かわいがってくれた!!

もうあのやさしい服部さんを見なれないと、本当に残念な気持ちでいっぱいです。

本当は服部さんの最後の「顔」を見ないと思ったが、山崎さんに「顔」を見ないと一生こ
かいするとゆうあとおしもあって、服部さんの最後の「顔」を見れて、本当に良かった!!

本当におつかれさまでした!! 本当に今までありがとうございました!!

ひぐち まさや

服部さんを偲んで

GH 生活支援員 佐藤 美代子

訃報を聞いた時、驚き現実を受け止める事ができませんでした。

グループホームのメンバーも、数日前に元気な姿を見たばかりなので、驚きと悲しみが大き
かったようです。ある年配のメンバーは「服部さん死んだんだかね?」と静かに聞き、亡く
なった事を受け止められない様子でした。また、「くやしい…」と言い大声で泣くメンバ
ーもいました。「服部さんとの付き合いは自分が16才の時から…」という60代のメンバ
ーもいました。話を聞くにつれ服部さんがどのメンバーともしっかりと信頼関係を築けていた
事をさらに感じました。希望者でお通夜に行き手を合わせてきました。メンバーからお香典
を出したいと声があり、全員で包みました。

今でもグループホームにある写真の前でお参りをする姿が見られます。

服部さんの思いを繋ぎ、これからもグループホームのメンバーと時には泣いたり笑ったり
しながら、私の出来る事を精一杯に行っていきたいと思います。

— お悔やみとお礼 —

服部さん、今まで本当にありがとうございました。
心よりご冥福をお祈りいたします。

メンバー・職員一同

服部さんのご家族より百万円のご寄附を頂きました。ありがとうございました。

グループホーム 上除寮・虹・与板寮

(上除寮:長岡市上除町字野田甲 105-22 ☎46-3116)

(虹:長岡市脇野町 1514 番地 ☎42-4299)

(与板寮:長岡市与板町与板乙 5958-1 ☎72-3900)

上除寮	虹 A,B 棟	与板寮
4月 お花見(赤坂山)	お花見	お花見(分水)
5月 避難訓練 一泊旅行(県内)	お楽しみ!長岡花火館へ	一泊旅行
6月ワイワイランチ(第2火曜)	避難訓練 ワイワイランチ(第2火曜)	避難訓練 ワイワイランチ(第2火曜)
7月 納涼会	納涼食事会(ランチ)	日帰り温泉
8月ワイワイランチ(第2火曜)	希望者:海へ行こう! ワイワイランチ(第2火曜)	納涼会
9月 創立記念日(9/8)	一泊旅行	お楽しみしみ買い物ツアー(花火館)
10月 めんたる祭 日帰り旅行	めんたる祭 大掃除	めんたる祭 日帰り温泉
11月 大掃除・避難訓練	避難訓練	避難訓練・食事会
12月クリスマス&忘年会	クリスマス&忘年会	大掃除 クリスマス&忘年会
1月 新年会	新年会	新年会
2月ワイワイランチ(第2火曜)	グループで食事へ	ワイワイランチ(第2火曜)
3月 日帰り温泉	町内クリーン作業&日帰り温泉	食事会

世話人さんコーナー

お疲れ様でした。

長い間、ありがとうございました。

虹

世話人 頓所 容子さん
3月末で退職

上除寮

世話人 杉本 八重子さん

1月末で退職

与板寮

世話人 大崎 咲子さん

3月末で退職



創造工房コスモス

(長岡市与板町与板乙 5954-3 ☎72-2526 FAX 89-6617)

コスモスの主な
年間予定表
毎月第2土曜日は
休日開所日を開いて
います。

4月	お花見
5月	社会見学
6月	一泊旅行 A 班、B 班
7月	スポーツデイ
8月	ふれあいときめき祭り
9月	与板十五夜祭り
10月	めんたる祭り、日帰り旅行
11月	社会見学、防災訓練
12月	忘年会
1月	新年会
2月	豆まき
3月	スポーツデイ



令和3年1月15日(金)

コスモスにて新年会を開催でした。

午前には地域の方を呼んで餅つき大会を行い、
とっても盛り上がりました！つきたてのお餅はとて
も美味しいですね。

午後からはトランプで「ババ抜き」を行いこちらも
盛り上がりました!! 大人数で行うと中々勝負が決ま
らないのですね。

最後は、くじ引きを行い、豪華景品を皆さんもらっ
て楽しい時間を過ごせました。



●あしがき

今年最初のメンタル通信をご覧いただきありがとうございました。服部さんが亡くな
られてしばらく経ちますが、まだまだ癒えない日々が続いています。服部さんの思いを
受け継ぎ頑張っていきたいと思います。今年度もよろしくお願いたします。 高頭

編集委員： 杉野 佐藤 高頭

